

話とは大分違っていた。騙されたと思うこと、多々。

しかしこの部で良かったと思うことも多い。普通の学生ではまずありえない経験をしているし、それが全て自分にプラスになっている。

私はカヌー、カヤックがしたい、そう思ってこの部に入部した。少し聞きかじっていたために探検部って何？という疑問を持つこともなく入部した。だから探検とは何か？なんてそれこそ考えたこともなかった。

今回あらためて考えてみると、探検とは「未知なるものを探求すること」という一般論のような答えしか思い浮かばなかった。しかし、実際そういう探検をしているかと言われれば、はいとは言いつらい。そこで今までの合宿を振り返って「探検」とは？と考えたとき、「自分の未知への挑戦」ではないのかと気付いた。

どこであつても初めての者にとっては未知の土地であるし、練習や合宿を重ねる度に、自分はここまでやれた、さらにもっと上まで、さらにさらに…と自分の未知な力をどんどん開拓している。そしてこの自分の周りの小さな未知を乗り越えてゆけば、最後に本当に大きな未知なるものへ挑戦できる日が来るのではないだろうか。

そう考えると一つ一つの合宿を本当に大切にしていかなければならない。ま



2006年夏アラスカ・コバック川遠征

たしっかりした目標を持って普段の練習から計画すべきである。自分にはそれがなかった。非常に悔やまれる。色んなことを体験して、色んな力を付けて、いざというときに選択肢を自ら狭めることのないようにしてほしい。

(50代/3回生)

自分自身やってきた探検とその思い

木下祐作

二〇〇七年九月現在で関西大学探検部に入部してから約三年と五ヶ月になるが、振り返ってみると「色々やってきたなあ」の一言である。

北は北海道、南は西表島と長期休みが来る度に日本中あちこちを駆け回って、挙句の果てには元々行くつもりがなかった海外にまで流れに身を任せて

行ってしまった。活動の内容も一回生の間とはとにかく色々やってみましょうという事で山、川、海（湖）と場所を選ばず先輩方についていき、二回生になる頃には沢登りを中心にやっという決意していたのだが、その矢先にアラスカ・コバック川遠征への参加を決意、以後川下りに没頭していったものの遠征終了後には再び沢に戻って来るというどっち付かずなものであった。

探検部員としては一つの分野に集中して活動した方が良いのかもしれないが、元々の入部の動機は「色々な所に行って色々な事をしてみたい」といった具合であり、そのまま四回生になるまで初志を貫徹してしまったのでこれまでの自分自身の活動には非常に満足している。

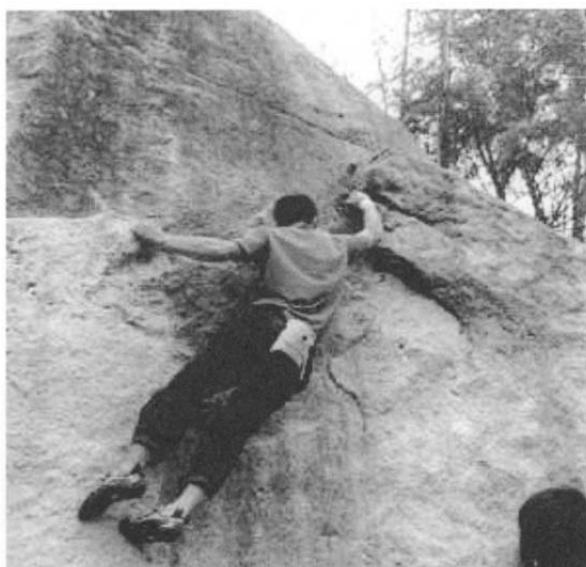
そして、概ね満足だった約三年と五ヶ月の間に学んだ事の一つとして、合宿の期間が長ければ長いほど、精神的にも肉体的にも辛ければ辛いほどに合宿は面白くなるという事だ。二回生になる頃にはそんな事はわかっていたのだが、やはりそれでも尻込みもしてしまった事が多々あり、これから先にそんな合宿に参加する時間、費用を捻出する事が絶望的になった今となっては後悔するばかりである。

もし今自分が一回生なら、と進級するたびに悲しくなる。しかしながら現

在の一回生、二回生には十分な時間がある。合宿中毎日泣きそうになる程辛いけど、それでも歯を食いしばってやるしかない、そんな合宿を是非やってもらいたい。そして十分な時間があると書いたばかりだが、部活動に集中できる期間は四年しかない大学生活の半分と少ししかない。

現在の一回生二回生、これから入ってくる新入部員にはどうかその貴重な時間を無為に過ごさず、全力で部活動に打ち込んでひどい目に遭ってほしい。

(49代/4回生)



2002年廻目平フリークライミング合宿より